

2026 年 3 月期 第 1 四半期決算に関する F A Q

※ ここでは、当決算について想定される質問と回答を参考として掲載しています。ご不明点等ございましたら、I R 室（03-3349-2526）までお問い合わせください。

Q1. 主な事業の足元の状況は。

当社鉄道事業	改札通過人員【7 月 1 日～21 日】 定期、定期外とも前年並みで推移 ※ 前年同日比
小田急百貨店	売上高【7 月 1 日～21 日】 新宿店 91%程度、町田店 前年並み、ふじさわ 92%程度で推移 ※ 前年同日比
シティホテル	客室稼働率【7 月 1 日～21 日】 ホテルセンチュリーサザンタワー 89.8%
箱根エリア	箱根湯本駅改札通過人員【7 月 1 日～21 日】 平日 98%程度、土休日 106%程度で推移 ※ 前年同日比
	箱根リゾートホテルの客室稼働率【7 月 1 日～21 日】 60%程度で推移 ※ 箱根リゾートホテル：山のホテル、はつはな、箱根ゆとわ、HOTEL CLAD

Q2. 決算説明資料における「観光収益」とはどのようなものか。

- ・ 当社グループ全体の観光に関する営業収益および免税取扱高を合算し、「観光収益」と定義している。足元では交通業（箱根・湘南エリアに関する定期外収入や特急料金収入等）が 5 割程度、ホテル業が 2 割程度であり、小売やリゾート人材派遣業等も含まれている。
- ・ 2025 年度 1Q の観光収益は、対前年で鉄道業やバス業の輸送人員増等による増収があったものの、百貨店業等において前年度に決算期変更を行った影響や免税売上の不調により、前年並みとなった。

年度	観光収益 (単位：億円)	
		うちインバウンド
2024 年度 1Q (実績)	195	64
2025 年度 1Q (実績)	193	63
2025 年度 (予想)	812	246
2030 年度 (目標)	1,200	450

Q3. 観光需要（特にインバウンド）の現状や今後の施策は。

- ・ 2025 年度 1Q の箱根フリーパスの販売枚数は、1Q として過去最高を更新した（前年比+13.0%）ほか、インバウンド向け販売枚数も過去最高を更新した（前年比+16.6%）。
- ・ 前年に比べ、東アジア（中国、台湾等）が伸び悩んだ一方で、欧米豪は増加し、市場別ではアメリカ、中国、台湾が TOP3 を占めた。
- ・ 2030 年度には、旺盛なインバウンド需要を取り込むことなどにより、通期で販売枚数 100 万枚を目指している。

年度	箱根フリーパス販売枚数 (単位：千枚)		
		うちインバウンド	割合
2018 年度 1Q	231	73	31.8%
2024 年度 1Q	220	89	40.4%
2025 年度 1Q	249	104	41.7%

※ **太字**：過去最高

- ・ 箱根エリアのホテルについては、インバウンド需要を着実に取り込み、客室稼働率や外国人宿泊者比率が概ね上昇傾向である。
- ・ 2025 年 12 月 15 日には旧「小田急箱根レイクホテル」を全面リノベーションした愛犬特化型ホテル「RETONA HAKONE」（リトナ ハコネ）のオープンを予定し、国内需要のさらなる取り込みを目指す。
- ・ 2025 年秋以降、小田急グループでは各社でクレジットカード等によるタッチ決済サービスを拡大し、従来からの江の島・鎌倉に加え、箱根での拡充や、大山での新規展開を予定している。お客さまの利便性向上に加え、旺盛な旅客需要の受け皿を強化することにも寄与するものと考えている。

(参考) ニュースリリース

[愛犬特化型ホテル「RETONA HAKONE」の開業日決定 \(2025/4/14\)](#)

[2025 年秋以降、小田急グループ 6 社でクレジットカードやデビットカード等によるタッチ決済サービスを拡大！ \(2025/6/16\)](#)

Q4. 小田急電鉄 鉄道事業におけるホームドア設置の進捗状況は。

- ・ バリアフリー料金制度を活用し、2032 年度までに新宿から本厚木までの全駅と中央林間、大和、藤沢への設置を進めており、2025 年度は新たに 5 駅で供用開始する見込みである。
- ・ それ以外の駅についても、転落事故の発生状況、視覚障害者の利用状況や整備要望、ホームの混雑状況等を踏まえ、整備の必要性を検討していく。

(参考) ホームドアの整備状況と計画

整備完了予定時期	箇所 (駅・番線数は累計)	
① 整備済み	16 駅 48 番線	新宿 (特急ホーム除く)、代々木八幡、代々木上原、東北沢、下北沢、世田谷代田、梅ヶ丘、豪徳寺、千歳船橋、登戸、町田、相模大野、海老名、本厚木、中央林間、大和
② 2025 年度	19 駅 54 番線	祖師ヶ谷大蔵、喜多見、狛江
③ 2026 年度	21 駅 60 番線	経堂※、和泉多摩川※
④ 2027 年度	25 駅 73 番線	南新宿※、成城学園前※、鶴川※、藤沢※
⑤ 2028 年度	27 駅 79 番線	参宮橋※、向ヶ丘遊園※
⑥ 2032 年度まで (計画)	37 駅 107 番線	新宿～本厚木のうち①～⑤を除く全駅

※ 自治体からの補助金交付状況や工事の進捗等により変更となる場合がある。

Q5. グループ各社の運賃改定の状況は。

- ・ 2024 年度以降に行った運賃改定の状況は下表の通りとなっている。
- ・ 2025 年 10 月 1 日（予定）からの箱根エリアでの改定は、5 月に公表した通期業績予想に織り込まれている。

（参考）ニュースリリース

[「箱根フリーパス」等の料金を改定](#)（2025/6/23）

（参考）主な運賃改定の状況と計画

会社名	概算影響額 ^{※1} (億円)		実施日
	2024 年度 (実績)	2025 年度 (予想)	
小田急バス（京浜ブロック） ^{※2}	8.1	9.8	2024 年 6 月 1 日
江ノ電バス	軽微	1.2	2025 年 3 月 15 日
小田急ハイウェイバス（箱根線）	－	0.6	4 月 1 日
小田急箱根（海賊船・ロープウェイ等）	－	8.0	10 月 1 日(予定)

※1 影響額は、運賃改定を実施しなかった場合との比較

※2 東京都区内・川崎横浜市内の一部

- ・ 2023 年度以前に鉄道業やその他（タクシー）においても運賃改定等を既に実施しており、引き続き、持続可能な事業運営体制の構築を図る中で、適切な時期での運賃改定を検討していく。

Q6. 各ホテルの 8 月以降の予約状況は。

〈シティホテル〉

- ・ 客室稼働率は、8 月、9 月ともに 80%程度を想定している。
- ・ 客室単価は、8 月はインバウンド需要の一時的な低下により下落傾向を示すが、9 月以降は 2025 年度 1Q と同程度で推移する見込みである。

〈箱根リゾートホテル[※]〉

- ・ 客室稼働率は、8 月で 70～80%程度、9 月は 70%程度と想定している。
- ・ 客室単価は、お盆期間を含む 8 月は上昇傾向を示すが、9 月になると落ち着き、2025 年度 1Q と同程度で推移する見込みである。
- ・ 箱根ハイランドホテルは、5 月 7 日以降、リニューアルに伴い全館長期休館中である。

※ 箱根リゾートホテル：山のホテル、はつはな、箱根ゆとわ、HOTEL CLAD

注意事項

本資料に記載されている、計画、見通し、戦略のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しであり、これらは公表時点で入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。

したがって、実際の業績は経済情勢等の変化によって業績見通しとは異なる可能性があります。

以 上